

こどもと健康

NO・144

2014・3・17

インフルエンザの流行、ピークを越える！

年が明けて1月12、13日の連休後にインフルエンザの本格的な流行は始まりました。11月から全国各地でA香港型が検出されましたが、年明けと共にAH1pdm09（2009年に大流行した所謂新型）が主流となっていました。AH1pdmは5年前に所謂新型として児童・生徒を中心に大流行しましたが、獲得した免疫が低下してきており、そろそろ流行する年ではないか、と言われていました。5年前流行した時、特に喘息を持つ子ども、あるいはアレルギーを持つ子どもが肺炎などで呼吸困難となって入院するケースが多発しましたので、今年の流行が始まると日本小児科学会も注意するよう呼び掛けてきました。今年の大阪府で流行は1月27日からの第5週に定点当たり、30.3と警報レベルを越えましたが、次第に減少して第8週には19.2となったものの再び増加しました。堺市ではこの週からB型が流行の中心となり、一時的に増加しましたが、3月3日からの第10週には大阪府18.0、堺市14.9に減少しました。全国的にはこの週で22.9と大阪府より多く、宮城県39.0、福井県38.9、岩手県37.9と6県ではなお30の警報レベルを越えています。今シーズン全国の衛生研究所で分離・検出されたウイルスはAH1pdm09が最多で47.3%を占め、A香港型26.4%、B型26.3%で直近の5週間ではAH1pdmが最多となっているが、堺市ではB型が最多となっている。尚、1月に札幌市衛生研究所で6例のタミフル耐性（タミフルが効かない）AH1pdm09が報告されましたが、その後の全国調査では6%に過ぎず、その多くは北海道となっており、今シーズンは大きな問題とはならないが、注視する必要がある。流行が続く為、堺市でも3月10日現在、学年閉鎖が2校2学年、学級閉鎖が15校21クラス（南区4クラス）となっています。少なくとも春休みまでは流行が続くと思われるので、ワクチン接種をしても、感染には十分注意しましょう。

外出から帰ったらうがいと手洗いを、人混みは出来るだけ避けてマスクの着用、疲れすぎないように休養と睡眠、バランスの良い食事と運悪く罹ってしまったら咳エチケットを守り、しっかりマスクをして他人にうつさない気配りをしましょう。

「はしか」に気をつけましょう！

MRワクチンの接種率の向上で一時大流行した「はしか」が影をひそめ、全国で一昨年300名余、昨年には200名余と激減、堺市ではこの5年間「はしか」患者さんはゼロでした。所が、今年になって2月26日までに全国で119名の報告があり、その発端者の多くは輸入例で特にフィリピンからのケースが多いようです。半数近くが成人例ですが、MRワクチン接種前の0歳児13%、未接種の1～4歳児が21%となっており、1歳のお誕生日が来たら早めの接種をお願いします。4月に入学予定の年長組の2期MRワクチン接種率が2月末で7割程度しかありません。3月31日までに必ず接種しましょう

みずぼうそうワクチン定期接種化へ！

昨年の予防接種法改正で定期接種となる予定のワクチンのうち、みずぼうそうワクチンと成人用23価肺炎球菌ワクチンが法案の国会通過次第、定期接種化される予定となっている。各市町村の準備等を考えると、秋頃からの接種開始と思われる。対象は1歳児と2歳児で2回接種（6ヶ月間隔）、本年度（平成27年3月31日まで）に限り、3、4歳児は1回接種が可能となる見込みです。詳細は次号でお知らせします。

「はしか」で亡くなる方はこの数年ありませんが、「みずぼうそう」や「おたふくかぜ」では毎年5名程度はなくなります。2回のワクチン接種をお勧めします。

小児用肺炎球菌ワクチンの補助的追加接種！

昨年4月から定期接種となった小児用肺炎球菌ワクチンが11月から7価から13価ワクチンに強化されました。93種ある肺炎球菌のうちこれまでは7種でしたが、13種が入ったワクチンが接種できるようになったのです。1回でも7価ワクチンを接種した場合も、11月1日以降に接種する時には13価ワクチンを接種します。初回3回と追加接種の4回接種は変わりません。尚、既に7価の接種が終了した6歳未満の幼児も残りの6種の免疫をつける為、1回だけ任意接種（有料で12000円）を受けることができますので、ご相談下さい。

肺炎球菌はありふれた細菌ですが、乳幼児が罹ると髄膜炎、敗血症、肺炎等の重症肺炎球菌感染症となり、命にかかわることがあります。肺炎球菌は常在菌と言われ、保育所園児のノドを検査すると4カ月児17%、7カ月児28%、10か月児36%、1歳6カ月児48%が保菌者であったというデータもあります。保菌者は無症状ですが、免疫力が低下すると、発病することがあります。7価の小児用肺炎球菌ワクチンが公費負担で接種が始まって3年経過しました。ワクチンに含まれる7種による重症感染症は10分の1以下にまで減少しましたが、ワクチンに含まれないものは変化がありません。生後10カ月までに半数が3歳までに80%が一度は保菌すると言われます。既に接種が完了していても集団生活をしている6歳未満児は1回接種（補助的追加接種といいます）を受けるようにしましょう。尚、高齢者に接種される成人用23価肺炎球菌ワクチンは全く別物ですので、小児には接種できません。

休診のお知らせ

日本小児科学会総会出席の為、

4月11日（金）午後 と

4月12日（土） は

休診させていただきます。